



No.67 2020.8.5

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

Twitterをはじめました

8月よりコミュニティ・スクールの理解を図り、推進していくためにTwitterを活用してのコミュニティ・スクールの取組情報の発信をスタートさせます。



「SDGs 未来安心都市・明石の創造～次なる100年のまちづくり～」に取組む本市は国より県内初となる「SDGs 未来都市」に選定されました。そうしたまちづくりには“まちを支え、社会を創り、豊かに生きる新しい時代に求められる資質・能力”を育む教育は欠かせない存在であり、子どもが育ち、大人も育つこれからの100年に向けての学びのデザインがもとめられています。だから今、コミュニティ・スクールなのだと考えます。

「いい学校はいいまちにある、いいまちにはいい学校がある いい学校づくり=いいまちづくり」を合言葉に「未来を創り、社会を支える、新たな学びと育ちのシステム」としてコミュニティ・スクールづくりの取組の情報発信を行っていきたく考えています。フォローをお願いします。(Twitterで@akashi_komisukuで検索)

林小学校で自前オンライン研修

7月22日に林小学校でオンライン研修会が開催されました。自前のWifiを活用してとのこと、まさしく自前のオンライン研修です。基本的な用語等やZoomやMeetへの入り方の説明のあと、用意したWifiが届く範囲で校内に広がって各自のタブレットやスマホでまず会議室に入ることを経験されたようです。Wifiの環境が整ってからでは遅いという思いで自前Wifiでのオンライン研修を計画されたようです。使ってみる中で、これを使ってという想像が広がり、活用方法を考え、試してみるということが始まると考えます。それは新たな学びの場を創る教師自身の探究の始まりではと思います。そんなチャレンジが広がっていけばと願っています。

朝霧小コミュニティ・スクールでは地域・保護者向けのZoom体験会を計画し、参加者の募集を行っています。その中で保護者の方から、保護者の方はZoom等は経験済みであったり、活用されている方が多いのでは？体験会ではなく、オンラインでこれから学校で何が始まるのかといったことの方が関心が高いのではというアドバイスをいただきました。オンラインは特別なことではなく普通のことになりつつあるんだなと感じました。そう考えてみると、オンラインで講義をうけた学生が来年4月には教員になってくるんですね。体験レベルでの話ではないですね。

地域の方が提案！ 子どもも 大人も学ぶ場を！



保護者・地域の方向けの Zoom 体験会の打ち合わせで朝霧小学校へいくと、校長室に地域の方がたずねておられました。地域の方が朝霧小・幼の 50 周年を記念して、桜を植樹することにはなっているが、柿の木など実のなる木も植えてみてはという話を持っておられました。Zoom 体験の打ち合わせは後回しで、柿の木の話に夢中になってしまいました。地域の方から柿渋の塗や柿渋での染などができたらいいなという話からだんだん、柿を植える予定の朝霧山（朝霧幼稚園の敷地）や朝霧小の目の前を流れている朝霧川での環境学習の可能性へとどんどん話が広がっていきましました。その広がる話の中で、「子どもだけが学ぶのではなく、保護者や地域の方にも朝霧のことを知ってもらいながらつながっていく場になったらいいな」という地域の方の一言で、一気に 50 周年を機に 100 年先に向けての学校づくり・まちづくりにつながるができたらいいなと妄想は広がり、“朝霧 100 年プロジェクト（仮称）”というネーミングまでついてしまいました。妄想で終わらないように、話を一度整理して、もうちょっとメンバーを増やしてたたき台をつくり、オンラインでの対話やリアルな対話の場をつくっていただけたらいいなという話になりました。この話に参加する中で、我々大人のプロジェクトが始まったような気がしました。また、こうした対話を重ねていく中で子どもの学びが変わっていくのでは、これが STEAM 学習につながっていくのではと思ったりしました。教職員、保護者、地域の方、そして子どもも対話に加わる中で、“当事者意識”をもった人が増え、プランが生まれ、具体化していく作業の中でこれからの必要とされる資質・能力を身につけるだけでなく、“楽しさ”を実感していくのではと思いました。これがコミュニティ・スクールの目指す姿なんだろうなと考えます。

「未来の教室」オンラインキャラバン×大阪



8月2日に“「未来の教室」オンラインキャラバン×大阪”が開かれました。

第一部が経済産業省浅野氏より「未来の教室」の理念を含め、“GIGA スクール構想”の上で描く「未来の教室」として基調提案のあと、“「未来の教室」の STEAM の取組”として参加者からの提案と対談、そして第 2 部が大阪の中学校・高校の先生から“ウ

ィズコロナ時代の「未来の教室」実現に向けた大阪の取組”として事例紹介と対談が行われました。林小のオンライン研修・朝霧の Zoom 体験会・朝霧 100 年プロジェクトの話などが頭の中にあっただので、それぞれとつなげながら聞くことができたので面白かったです。もし、コロナで休業中にオンライン研修ができていたらどうなっていたんだろうとか、また、今 STEAM 教育を含め探究をイメージする必要があるのではとか、タブレットの活用を考える必要があるのではとかいろいろと頭のなかをよぎりました。オンラインキャラバンでは視聴者からチャットでダイレクトに質問・感想・意見が寄せられます。それを見ていると「コロナの対応、教科学習で・・・、現状では無理」といった意見も多く改めて学校・教育が変わらなかった、変われなかった背景を見たような気がしました。話の中で「一人一台のパソコン・タブレットをこわれるくらい使い倒すことが保護者の理解を得られる」といったニュアンスの浅野氏の言葉が印象的でした。でも私の頭をよぎったのは「今、タブレットをさわる時間ではありません」と教室に響く声でした。 (文責：北本)